



自然と共生しながら ありのままに生きる

話し手 自然コーディネーター(颯娃町で「窯づくり研究会」、
「ニホンミツバチを楽しむ会」を運営)

岩下 勲さん (昭和22年10月20日生)

聞き手 鹿児島県立 指宿高等学校 普通科 1年



現在の活動へ至るまで

生まれは種子島で、幼少期は魚釣りなどをして自然が大好きでした。16歳の高校進学で鹿児島に来て、25歳で建設会社に就職し、37歳で独立、64歳で引退するまで建設業です。

仕事とは別に、若い頃から今に至るまで、窯作り、ニホンミツバチの飼育、カヌー体験、シーグラスを使った造型など、自然に関する活動をたくさんやってきました。それが今の活動につながっていますね。

今は颯娃町で主に、窯で焼くピザ屋をやっています。ピザ窯を始めたのは、25歳の時に陶器窯に興味を持って作ったのがきっかけです。そこから炭焼きにも興味を持ち、10年近く炭窯を作ったりしました。この経験が、現在の窯文化を楽しむ「窯づくり研究会」に繋がっています。炭窯作りで培ってきた経験を生かしながら、多くの人に自然と触れ合い、家族や友人達と楽しい暮らしをしてもらいたいと思い、ピザ窯体験や養蜂体験、カヌー体験など、自然に関する様々な体験活動を始めました。



この近くを流れる加治佐川はカヌー体験をするのに、とても良い川です。

緩やかなカーブが続き、高低差が少ない川なので、川の奥まで進むことができます。また、河口にある大川漁港も長閑なので、川と海を楽しむことができる素晴らしい環境です。



ニホンミツバチと出会って

私は、ニホンミツバチの飼育や蜂蜜の採り方を学ぶ「ニホンミツバチを楽しむ会」というものも立ち上げています。その中で、お客さんに蜂の群れと巣箱を買ってもらい、私が管理して、年に2回蜂蜜を持って帰ってもらうオーナー制度というものを設けています。お客さんがニホンミツバチを飼育することで、少しでもニホンミツバチの魅力や、蜜を採る時の喜びを体験して欲しいですね。それと、可能な限り、花が虫に受粉を手助けしてもらい、虫媒花と言いますが、そういうのにも繋がったらいいなと思いますね。ミツバチは2km圏内での活動で、そのエリアにあるさまざまな花から蜜を採ってくるので「百花蜜」と呼ばれています。この辺の山には、「シイヤカシ」の木が自生しています。これらの木はミツバチの媒介で実り、その実が着床して増えていきます。こういった地域に自生する植物の手助けに繋がってほしいなと思います。



私を突き動かすもの

私は、どんなに肉体的にきついことをしても、自分が楽しいと思えばカバーすることができると考えています。ありのままの自分を出して、あれがしたいと思ったら、不思議とそのことが気になって、体に動作が起きてくるんです。どんなことでもしたいことを持



てば、何かをする原動力となります。私の場合はそれが“自然を楽しむ”だったんです。みなさんもぜひ、自然に親しんでいろんなことを経験してください。自然にとって何一つ不要なものはありません。私たちは、自然に生かされているのですから。

聞き書きコラム



小さなミツバチの大きな役割

「虫媒花」とは、蝶や蜂などの昆虫に花粉を運んでもらい受粉を行う花のこと。こうした花は、目立つ花や香り、蜜を用意して昆虫を誘う。ミツバチはその蜜を採取する際、体に花粉が付く。そのミツバチが、別の花に移動した際に、体に付いた花粉がめしべに付き受粉する。このような昆虫の働きによって、地域に自生する植物は、受粉し繁殖することができる。